

佐々木互先生のご逝去を悼む

家 泰弘（物性研究所 教授，物理学専攻）



■ 故・佐々木互先生

本学名誉教授、佐々木互先生（物理学専攻）はご療養中のところ 2008 年 12 月 11 日に逝去されました。享年 85 歳でした。先生は東京帝国大学第二工学部航空機体学科をご卒業、通信省電気試験所（後の電子技術総合研究所）勤務を経て、昭和 43 年（1968 年）に本学理化学部教授に着任されました。昭和 58 年（1983 年）に東大を定年退官された後は、東邦大学理化学部で教鞭を執るとともに理事として大学経営にも携われました。

先生の専門分野は半導体物理学と低温物理学でした。若き日に電気試験所で行ったゲルマニウムのホットエレクトロン効果の研究では、特徴的な異方的輸送現象を見出し、それをバンド構造から鮮やかに解明されました。わが国の半導体研究黎明期における特筆すべきこの業績に

対して昭和 37 年（1962 年）に仁科記念賞が贈られています。

その後先生は、半導体における不純物伝導に取り組み、それがライフワークとなりました。磁場印加によって電気抵抗が減少する不思議な現象を丹念な実験によって確立されました。この「負の磁気抵抗効果」は、後年アンダーソン局在のスケールリング理論を契機として電子の量子干渉というその物理的起源が解明され、乱れた系における電子系の物理の本質をとらえた先駆的なご研究と位置づけられました。

先生は高濃度ドーピングした半導体における金属非金属転移の問題に関して、伝導測定はもとより、磁気測定、熱測定、磁気共鳴などあらゆる実験手段を駆使した総合的研究を展開されるいっぽう、多くの弟子を育てられ、わが国の半導体・

低温分野の実験研究のレベル向上に多大の貢献をなされました。

学者らしい風格を備えた佐々木先生のお姿を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

この追悼文は 2009 年 3 月号に掲載予定でしたが、編集委員会の手違いにより、掲載がたいへん遅れてしまいました。佐々木先生のご遺族、追悼文をご執筆いただいた家先生をはじめ、皆様に深くお詫び申し上げます（編集委員会）。

近藤保先生を偲ぶ

山内 薫（化学専攻 教授）



■ 故・近藤保先生

近藤保先生は、1997 年 3 月まで本学理化学部化学科教授として研究・教育に尽力され、東京大学御退官後も、豊田工業大学にて基礎研究のフロンティアを精力的に開拓してこられました。その近藤先生が 5 月 25 日に、まだ 72 歳というご年齢で、突然御逝去されたことは、悲しく、とても残念でなりません。

近藤先生の明るく、とても親しみやすい雰囲気は特別で、私は、朽津耕三先生の研究室の大学院学生であったころからたいへん世話になり、よく気が合うところがあり、近藤先生との、冗談を取り混ぜた会話に引き込まれ、長い時間ディスカッションをすることがたびたびありました。これまで、研究や学問以外のさまざまな面でも、近藤先生から直接アドバイスをいただくことができたことは、私にとって掛け替えのない財産です。

そのおかげで、私の視野が徐々に広がっていったように感じています。

近藤先生は、クラスター科学という新研究領域を開拓された先生として国際的にきわめて著名です。原子・分子の集合体をクラスターと呼びますが、構成原子数や分子数が増えていくとき、そのクラスターの性質や反応性、あるいは、クラスター内部での化学反応がどのような機構によるものか、という物質科学における基本問題に正面切って取り組んでこられました。私は、近藤先生が新しい学術領域を開拓しておられるお姿を見て、新しい魅力的な分野に挑戦することの大切さを学ばせていただいて参りました。私の現在の研究スタイルも、近藤先生のお姿に少しでも近づこうと努力してきた結果であるように思います。

近藤先生は、近藤研究室のメンバーや卒業生の方々が良い環境で研究やお仕事ができるように、恒に努力してこられました。今後、研究室のメンバーや卒業生の方々は、それに応え、ますます活躍されることと思います。私も、近藤先生の御指導を受けた者の一人として、近藤先生からいただいたメッセージを胸に、そして、それを糧に前進して参ります。近藤先生、どうぞ安らかにお休みください。

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|-----------------------------|----|---------------------|---|
| 2009年4月10日付学位授与者(2名) | | | |
| 課程 | 化学 | 野元 邦治 | ピリジルピリミジン配位子の環反転に基づいた電子ゲート可能な新規銅錯体系の構築(※) |
| 課程 | 生科 | Mehta Ratnesh Bhair | メダカ属魚類におけるMHCクラスIゲノム領域の進化(※) |
| 2009年4月30日付学位授与者(1名) | | | |
| 課程 | 生科 | 宇野 佑子 | ミツバチ脳における幼若ホルモン代謝と小胞体カルシウム放出に関わる遺伝子・タンパク質のキヌコ体選択的な発現に関する研究(※) |
| 2009年5月25日付学位授与者(4名) | | | |
| 課程 | 天文 | 花山 秀和 | 第一世代超新星残骸中の種磁場の生成(※) |
| 論文 | 地惑 | 小畑 淳 | 数値モデルによる気候炭素循環結合系の研究:海洋の経年変動及び北大西洋への淡水流入に対する応答について(※) |
| 論文 | 化学 | 沖野 友哉 | 強光子場における炭化水素分子の超高速水素ダイナミクスとアト秒パルス分子分光に関する研究(※) |
| 論文 | 生化 | 渡海(西住) 紀子 | キネシン様蛋白質 Kid の同定と機能解析 |
| 2009年5月29日付学位授与者(1名) | | | |
| 課程 | 生化 | 吉種 光 | 概日時計発振系におけるCLOCKとBMAL1のリン酸化による機能制御(※) |

人事異動報告

| 異動年月日 | 所属 | 職名 | 氏名 | 異動事項 | 備考 |
|-----------|-------|----------------|---------------|------|-------------------------------|
| 2009.6.1 | 物理 | 助教 | 麻生 洋一 | 採用 | |
| 2009.6.1 | 遺伝子 | 准教授 | 真田 佳門 | 採用 | 大阪大学大学院医学系研究科独立准教授から |
| 2009.6.1 | スペクトル | 准教授 | 岡林 潤 | 採用 | 東京工業大学大学院理工学研究科助教から |
| 2009.6.16 | 天文セ | 教授 | 河野孝太郎 | 昇任 | 准教授から |
| 2009.6.30 | 化学 | 助教 | 吉戒 直彦 | 辞職 | 南洋理工大学(シンガポール)助教へ |
| 2009.6.30 | 事務 | 副事務長(経理) | 梅原 英克 | 勸奨退職 | |
| 2009.7.1 | 物理 | 事務室主任 | 川崎 勝 | 出向 | 日本学術振興会研究事業部研究助成第二課審査・評価第二係長へ |
| 2009.7.1 | 物理 | 事務室主任 | 上間よしみ | 配置換 | 農学系総務課附属動物医療センター事務室主任へ |
| 2009.7.1 | 物理 | 事務室主任 | 丸屋 久 | 配置換 | 教養学部等経理課財務係主任から |
| 2009.7.1 | 物理 | 一般職員 | 平原 茂子 | 配置換 | 農学系総務課附属動物医療センター事務室から |
| 2009.7.1 | 物理 | 事務室係長 | 佐々木陽子 | 昇任 | 事務室主任から |
| 2009.7.1 | 化学 | 助教 | Ilies Laurean | 採用 | |
| 2009.7.1 | 化学 | 事務室係長 | 澁谷 弘毅 | 配置換 | 医科学研究所経理課専門職員へ |
| 2009.7.1 | 化学 | 事務室係長 | 須長 健介 | 配置換 | 柏地区事務部数物連携宇宙研究機構事務部門給与・旅費係長から |
| 2009.7.1 | 地惑 | 一般職員 | 増田みゆき | 配置換 | アイソトープ総合センター庶務係から |
| 2009.7.1 | 臨海 | 准教授 | 吉田 学 | 昇任 | 講師から |
| 2009.7.1 | 事務 | 副事務長(経理) | 森 啓介 | 配置換 | 附属図書館総務課副課長から |
| 2009.7.1 | 事務 | 大学院係長 | 寺田 英雄 | 配置換 | 法学政治学研究科等公共政策大学院係長へ |
| 2009.7.1 | 事務 | 大学院係長 | 佐藤満喜子 | 配置換 | 総務・法規系広報グループ広報企画チーム係長から |
| 2009.7.1 | 事務 | 研究支援・外部資金チーム係長 | 菊地 啓子 | 配置換 | 教育・学生支援系留学生支援グループ企画チーム係長へ |

あとがき

17 ページの記事の箇所でもお詫びさせていただきましたが、編集委員会の手違いで、家泰弘教授に御執筆いただいた佐々木互先生の追悼文の掲載が大幅に遅れてしまいました。この場をお借りしてあらためて深くお詫び申し上げます。本来、この追悼文は2009年3月号に掲載予定だったのですが、編集段階でのいくつかの不手際が重なったため掲載できず、ご逝去から半年以上も経っての掲載になってしまいました。これを教訓に、このような基本的なミスをくりかえさないよう編集委員一同で確認させていただきました。

さて、トピックスとしてもご紹介いた

しましたが、理学部ニュースの創刊からすべての号について電子ファイルで公開させていただきました。創刊のころの号をみると「改革」「情勢」「討論集会」などの文字が散見され、当時の雰囲気を感じていきます。また記事も事務連絡的な内容が多く、現在のようなアカデミックな感じが出てくるのはもう少し後になります。今年で発刊以来40年を迎えることになりましたが、最新号も「現在の理学部の雰囲気」を伝えているものになっていれば幸いです。

今号の「研究ニュース」から新たな試みとして、一部の記事で第1段落で要旨を書いていただくようお願いしてみました。Nature 誌などでおなじみ

の方もいらっしゃるかもしれませんが、「つかみが大事」という趣旨です。また著者の方に直接編集委員がおはなしに伺い記事の書き方についてご相談させていただくという試みも始めました。「理学から羽ばたけ」の井上智広さんも書いておられましたが、「誰にでも『伝わる』ために大事なことは何か」について、わたしたち委員も試行錯誤しているところです。また前号から段組みを一部変更して、2段組みとさせていただいています。読みやすく(?) になりましたでしょうか。あと表紙にも微妙な工夫が。気付いていただけたでしょうか（間違い探しクイズのつもりはないのですが…）。

横山 央明（地球惑星科学専攻 准教授）

第41巻2号

発行日：2009年7月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会（e-mail：rigaku-news@adm.s.u-tokyo.ac.jp）

牧島 一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明（地球惑星科学専攻）yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義（生物科学専攻）nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

島田 敏宏（化学専攻）shimada@chem.s.u-tokyo.ac.jp

斉藤 直樹（庶務係）nsaito@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵（庶務係）c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション：

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

HP 担当：

柴田 有（情報システムチーム）yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：

大島 智（情報システムチーム）satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷・・・・・・三鈴印刷株式会社